

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース  
／湯地 宏樹

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

科研費は毎年申請していますが、残念ながら結果は過去5年間不採択でした。いずれも過去の自分の研究実績と離れて、奇をてらい過ぎたテーマで申請したことも原因だと自己分析しています。したがって、次の申請では従来の研究テーマで申請しようと計画しています。

これまでコンピュータゲームの子どもにたいする影響について、コンピュータゲームが普及し始めた初期から関心をいだし、20年以上にわたって研究テーマとして取り組んできました。コンピュータゲーム否定論が支配する中で、コンピュータゲームの持つ潜在的な教育機能に着目し、テレビのような媒体とはちがって、コンピュータゲームは双方向性があり、子どもにとっては強力な能動的遊びメディアであるとともに、メディア・リテラシーの発達にとっては有効な学習メディアになりうる可能性を主張してきました。この仮説を裏づけるために、幼児及び小・中・高・大学生の各発達段階の子どもを対象に調査および実験を行い、コンピュータゲームの持つ学習効果を科学的な統計データによって実証してきました。

1983年にファミリーコンピュータが登場してちょうど来年で30年になります。その節目に、前回の研究で行った調査と全く同じ質問項目を用い、過去と現在の比較研究を行おうというのが科研へ応募する申請内容です。

## 2. 点検・評価

平成25年度基盤研究(C) (一般)へ、コンピュータゲームに関する研究の科研の申請を行ったが、残念ながら不採択だった。しかし、コンピュータゲームが普及し始めた初期から幼児、小・中・高・大学生の各発達段階の子どもを対象に調査および実験を中心とした実証的研究を一貫して行っており、昔と今を比較することは意義があると思っているので、今後も研究を継続していきたい。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

赴任したばかりなのですが、大学院の入試委員としての責任もあるので、幼年発達支援コース長や先生方と相談しながら、保育者養成大学等を訪問して広報活動を積極的に行おうと考えています。具体的には、まず馴染のある広島県内の大学(比治山大学、安田女子大学、広島文化学園大学、福山市立大学、広島文教女子大学など)を担当したいと考えています。

広報活動の際には、入試制度だけでなく、本学の建学の精神やカリキュラムなどの特色を十分理解しておく必要があるので、この半年間は本学の教育・研究について勉強する期間にしたいと考えます。また赴任したばかりだからこそ、大学のよさに気づくことも多いと思っています。たとえば、保育実習では、学生の指導日に公開保育として教員が参加するというシステムには驚きました。おそらく、全国で唯一といっているかもしれません。そうしたよい面をたくさん発見し、アピールポイントを見つけていきたいと考えています。

## 2. 点検・評価

10月1日から本学の大学院入試委員になった。大学院パンフレット(「大学院ガイドブック」)の改訂にかかわったおかげで、コースのアピールポイントを理解する機会になり、コースの先生方と相談しながらパンフレット作りを進めることができた。広報活動としては、広島県内の保育者養成大学の先生方で行った研究会の機会に、パンフレットを配布して説明を行った。しかし、県内外で開催される入試説明会などで大学院全体の概要を説明するまでには至っていないので、他のコースの特色もこれから理解していきたいと考えている。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

「幼児教育課程論」、「保育原論」などの講義系科目では、プレゼンテーションソフトをベースにしなが、専門的知識・技術の伝達に必要なデジタル情報を効果的に扱うことで、授業の「流れ」を重視した学生参加型の授業を展開していきます。

幼年発達コースの特別公開授業および授業研究会・FDワークショップでは、小生の授業科目「保育原論」(10月25日(木)1時限目)が対象になっています。当日も特別なことはせず、普段どおりの授業を行って、みなさんに評価していただこうと考えています。

大学の授業で常に心がけていることは、「双方向性」と「能動性」です。したがって、学生による授業評価では、学生の授業参加度や学習到達度を重視し、これからも学生の学習成果のプロセスを重視していくようにしたいと考えています。

#### 2. 点検・評価

年度途中赴任のため、前期の授業分はすべて夏季休業中において集中講義を行った。授業では、「双方向性」と「能動性」を意識して、プレゼンテーションソフトをベースにしなが、専門的知識・技術の伝達に必要なデジタル情報を効果的に扱うことで、授業の「流れ」を重視した学生参加型の授業を展開している。しかし、本学の講義をはじめて行って気づいたことは対象の難しさである。つまり、学部生・大学院生とも職歴や学習歴などさまざま、どの授業でも幼児教育の基本を伝えなが、一定のレベルを保つ必要性を感じた。

特別公開授業および授業研究会・FDワークショップは、予定どおり担当授業科目「保育原論」(10月25日(木)1時限目)を実施した。授業の流れや時間配分などに反省点もあったが、授業参加者から「保育理論及び教育実践力を養うという点が優れている」などの評価をいただいた。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

半年間で目標としている研究計画は以下の3つです。

##### ①コンピュータゲームの研究

コンピュータゲームで遊ぶ子どもの特性をさぐるために、来年度、幼児及び小・中・高・大学生を対象に質問紙調査を行います(科研申請予定)。来年度に向けて、質問紙の作成、調査対象校の選定等を行います。

##### ②保育者養成校における学習成果の研究

子ども観、保育観がどのように形成されるか、また大学の成績やさまざまな生活経験が学習成果にどのような影響を及ぼしているか、昨年度の調査で得られたデータを分析し、論文にまとめます。

##### ③「子ども学」の研究

津守のいう「子どもとふれあうところから始まる学問」としての「子ども学」の研究に着手したいと考えています。子どもとおとな(親・保育者)との相互作用における言葉(つぶやき)のテキスト分析を行いたいと考えています。今年度は、膨大に録りためているデータを入力する作業を行います。

#### 2. 点検・評価

本年度の研究に関しては、来年度に向けての準備は整った点はよかったが、論文の執筆ができなかった点で自己評価は低い。年度目標に対する結果は以下のとおりである。①コンピュータゲームの研究: 科研申請のテーマについて、来年度に向けて、文献の購読や質問紙調査の作成に着手したが、残念ながら不採択だった。②保育者養成校における学習成果の研究: 昨年度の調査で得られたデータを分析し、論文にまとめる予定だったが、データの不備もあり、質問紙調査を再度実施するなどしたので、論文を執筆するまでに至らなかった。③「子ども学」の研究: 子どもとおとなの相互作用における言葉(つぶやき)の収集を行った。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

いま大学では「質保証」の在り方が問われていると思います。「何を教えるか」→「何ができるようになるか」という質的転換が必要です。

本学は、21世紀に活躍する教員の養成を理念として、教育実践学をコアとするカリキュラムを編成している、教員養成系では先駆的な大学です。理論と実践の連動を目指すコア・カリキュラムにおいて、自分が担当する保育所実習等の科目はとくに重要だと認識しています。

赴任してからこの半年間は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 教育者としての人間性」「2. 協働力」「3. 生徒指導力」「4. 保育・授業実践力」「5. 省察力」を踏まえながら、校務や担当授業との関係性を理解し、自分なりにカリキュラム・マップを構築していくことを課題とします。

### 2. 点検・評価

平成24年8月28日「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」の2つは、本学にとって重大な答申である。大学院入試委員という立場ではコースのアドミッション・ポリシー、保育実習・教職実践演習の科目担当者としてはディプロマ・ポリシーと実習評価およびキャリアノートとの整合性についてかかわりがあると認識しているので、来年度に向けても試行的に検討していきたい。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

鳴門教育大学附属幼稚園は、文部科学省研究開発学校制度で「幼児の科学的な思考の芽生え、及び小学校やそれ以降につながる力を育てる教育課程や指導内容・方法について」取り組んでいると伺っています。まさに自分の研究分野そのものなので、附属幼稚園との関係を密にして、勉強させていただく機会をもてることを期待しています。まずは、時間のある限り、頻りに足を運びたいと思っています。

### 2. 点検・評価

鳴門教育大学附属幼稚園における平成24年度合同研究会「遊誘財部会」に見習いで参加させていただいた(9月25日(火)、10月30日(火)、11月20日(火)、12月25日(火)、1月22日(火))。平成25年2月9日(土)「平成24年度幼児教育研究会」の大会にも参加した。来年度から研究会のメンバーに加わることができるよう、鳴門教育大学附属幼稚園の「研究紀要」等を購読し、これまでの研究の経緯や研究の背景の理解に努めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)